

平成 28 年 11 月 定例教育委員会々議録

1 日 時 平成 28 年 11 月 29 日 (火) 午後 2 時 30 分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室 101、102

3 出席委員の氏名

教 育 長	仲 野 孝	教育長職務代理者	齋 藤 和 夫
委 員	黒 川 優 子	委 員	山 崎 克 弥
委 員	中 野 信 男	委 員	秦 久美子

4 欠席委員の氏名 なし

5 説明のため出席した職員

教 育 次 長	山 田 公 一	主 幹	長 谷 川 智
学 校 教 育 課 長	堀 克 彦	子 育 て 支 援 課 長	宮 路 豊 行
社 会 教 育 課 長	宮 路 一 規	統 括 指 導 主 事	齋 藤 暁 史

6 本委員会書記

学校教育課 太 田 和 行 他 3 名

7 傍聴人

1 名

8 会議に付議した事件

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄附報告

専決処分の報告について

報告第 11 号 共催・後援の教育長専決報告について

その他

(1) 平成 28 年第 3 回燕市議会臨時会（教育委員会関係抜粋）

1) 平成 28 年度燕市一般会計補正予算（第 4 号）の概要について

会議録

別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午後 2 時 30 分～

2. 会議録署名委員の指名 中 野 信 男 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について

〈各課長が報告〉

(2) 教育長報告

〈仲野教育長が以下のとおり報告〉

1 新聞等の報道から

(1) 子ども達の痛ましい事故

- 今月になり、中学生や高校生が自殺する事故が相次いだ。
- 特に高校生の案件は、生徒が学校側にいじめを相談しており、校長の指示で担当教員がいじめをしたとされる複数の生徒に事実を確認し、いじめをやめるよう指導した矢先の事故である。
- 関係生徒に指導したあと、被害者や加害者の些細なことにも目を配るとともに、学校によっていじめの認知に差がないよう校長会で指導したい。
- 「いじめ防止対策推進法」が施行されてから3年が経過したが、過小評価によって対応の遅れを招かないようにしたい。

(2) 教職員の懲戒処分

- 教科書会社が自社の教科書を採用した高校に教材を無償提供していた事がわかり、校長と教諭が厳重注意を受けた。また、検定中の教科書を見せ、謝礼などを贈っていた問題でも校長が厳重注意を受けた。
- 教員の交通事故や違反、校務用U S Bメモリーの無断持ち出しによる紛失事故もあったことから、校長会で注意喚起をする。
- 教員は、地方公務員法を意識し、法令等や上司の職務命令に従う義務、信用失墜行為の禁止、秘密を守る義務があることから、指導を徹底したい。

2 11月行事予定より

(1) 平成28年度「深めよう 絆 県民の集い」

- 平成19年度からの取り組みも今年で10年となり、教育関係者や児童生徒とその保護者を合わせておよそ1,500人の参加があった。
- いじめを未然に防ぐとともに、いじめを見逃さず、お互いに関わりながら声をかけながら、児童生徒の社会性を育むことが必要である。しかし、昨今SNSの普及により、いじめが見えにくくなったとのこと。

- 実践発表では、村上市立神納中学校生徒会が「いじめ防止のビデオ」を制作したことを紹介し、柏崎市刈羽郡中学校生徒会では「中学生によるメディア宣言」のレポートの報告をした。また、新潟県労働金庫からは、「ろうきん笑顔プロジェクト」として中学生向けDVDの紹介があった。
 - 第2部のリレートーク「いじめ見逃しゼロ ～私たちにできること～」では、「人間関係が続く限りいじめはなくなることはないこと」、「いじめは犯罪、県全体で取り組みを継続すること」、「家庭環境による親と子どもの会話も重要であること」、「ストレスからいじめが起こること」、「加害者は寂しさを抱えていることが多いこと」、「いじめはどこにでもあることを前提に絶対に見逃さないこと」など体験に基づく意見が出された。
- (2) 「五千石遺跡からのメッセージ」の講演会(11月6日)
- 10月1日から約2ヶ月に渡り、信濃川大河津史料館において遺跡品の展示とともに、社会教育課の学芸員による講演会があった。
 - 縄文時代からの古墳時代のムラの営みが遺された品が数多く発掘され、その時代を振り返る内容であった。当初30人前後の参加者を見込んでいたが、当日は50人ほどの方々においでいただいた。
 - 文化や歴史は、先人の生き方を学ぶことにつながる。子ども達の歴史の学習教材として各学校に紹介したい。
- (3) 分水小学校創立50周年式典(11月12日)
- 昭和42年4月に、地藏堂小学校、五千石小学校、笈砂小学校の三校が統合し、新しく分水小学校として創立した。
 - 当日は、市長及び山崎教育委員とともに、式典と音楽発表会に出席した。
 - 音楽発表会では、スムーズな進行と子ども達の歌声に感動した。
- (4) B&G財団全国教育長会議(11月8日)
- 全国市町村から約60人の教育長などが集まり、筑波大学教授や文部科学省特別支援教育課担当者の講話及び事例発表などがあった。
 - 今年4月に「障害者差別解消法」が施行されたが、この法では、不当な差別的取扱いの禁止と合理的配慮の提供が求められており、障害のある人もない人も、互いにその人らしさを認め合いながら、共に生きる社会を目指している。本市においても、障害者のスポーツ大会などをおとした交流の場を設けることも大切であると感じた。
 - 特別支援教育については、特別支援学校、小中学校に置く特別支援学級、通常の学級に籍を置きながら、週に数時間程度必要な特別な指導を行う通級による指導に分かれるが、文部科学省では、平成27年5月段階で、特別支援学校の在籍数を137,894人、特別支援学級在籍者数が201,493人、通級による指導を受けている児童生徒数は、90,270人と公表している。
 - 現状では、知的障害や自閉症・情緒障害の数が圧倒的に多く、また、通級

による指導の現状は、学習障害(LD)や注意欠陥多動性障害(ADHD)、自閉症などがほとんどである。こうした状況は、本県においても同じ傾向にあり、特別に支援を要する児童生徒に対し、早期から一貫した教育的な支援を図る必要があり、各教育委員会で取り組んでいるところである。

- こうした特別な支援を必要とする児童生徒は、どの市町村にもどの学校にも在籍していることから、障害のある人とそうでない人が個々の違いを認識しつつ様々な人が活躍できる社会にしなければならないと考える。

3 その他

- 時事通信社が発行する「内外教育」に教育委員会が取り組む「学びの連続性」と、吉田中学校の「わたしの学校経営」が取り上げられた。

- 社会教育課長（宮路 一規）

B&G 財団は、海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動などを通じて、次世代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者までの国民の心と体の健康づくりを推進することを目的として、モーターボートレースの収益金で昭和 48 年に創立された。全国 48 の自治体は、この財団からプールあるいはボートハウス、体育館を建設してもらい、この財団から無償譲渡してもらっている。本市においても、昭和 60 年度に B&G のプールを財団から建設してもらい、無償譲渡してもらった。その B&G のプールを活用して様々な取り組み、大会を行っており、そういった関係で本財団との付き合いを続けている。

(3) 寄附報告

2 件の寄附について
〈堀学校教育課長が報告〉

4 専決処分の報告について

報告第 11 号 共催・後援の教育長専決報告について
1 件の共催・後援について
〈宮路社会教育課長が報告〉

5 その他

(1) 平成 28 年度第 3 回燕市議会臨時会（教育委員会関係抜粋）

1) 平成 28 年度燕市一般会計補正予算（第 4 号）の概要について
〈堀学校教育課長が説明〉

○学校教育課長（堀 克彦）

11月22日の地震の影響で燕地区に断水が起こり、給食センターが稼働出来ない状況に追い込まれた。午前7時頃から給食センターと連絡を取り、タイムリミットの8時半にギリギリ間に合わせることができ、給食開始が5分程度遅れた学校はあったが無事に供給することが出来た。

6 閉 会 午後3時12分

教 育 長 仲野 孝

会議録署名委員 中野 信男

会議録調整者 竹田 亮子
